



# 学院史編纂室便り

NO. 51 (2020.5.1)  
関西学院大学 学院史編纂室

## ★『関西学院史紀要』第26号の発行

3月15日に『関西学院史紀要』第26号を発行しました。第6号以降は「関西学院大学リポジトリ」に登録されていますが、印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください（創刊号、2号、12号、13号、15号は在庫なし）。

〔論文〕カナダ首相は、なぜ関西学院大学と上智大学を訪問したのか？  
ディーフェンベーカーの初来日について

朝日新聞時代の十河巖

「文化活動の推進者」・十河巖 - 朝日会館館長時代を中心に

戦間期関西学院における「恒久平和」運動について(下)

〔記録〕第52回 関西学院史研究会

C.J.L. ベーツ宣教師の生涯と思想

〔寄稿〕関西学院における大学紛争の歴史

トント大学留学記(2)

櫻田 大造

岡野 宏

中村 仁

井上 琢智

神田 健次

木村 浩造

武田 建



カナダ大使館から関西学院に贈られたディーフェンベーカー首相の写真(署名入)

## ★駐日ラトビア共和国大使による関西学院大学特別講演会“Latvia’s Century”の開催

12月3日、ダツェ・トレイヤ＝マスイー駐日ラトビア大使を西宮上ヶ原キャンパスにお迎えし、大学主催の特別講演会“Latvia’s Century”（「ラトビアの100年」、日本語通訳付き）が開催されました（共催：経済学部、産業研究所、学院史編纂室、協力：在大阪ラトビア共和国名誉領事館）。会場となった第5別館3号教室には、学生だけでなく、卒業生や一般の方も含め約500名が集まり、次々に紹介される写真と大使の話に魅了されました。

関西学院とラトビアの関係は、1918年にラトビア人青年イアン・オゾリンが高等学部（現在の大学に当たる）の英語教師となったことに遡ります。オゾリンは教師をしながら、独立

間もない自国領事の役割を果たし始めました。その不思議な絆に注目された初代ヴァイヴァルス大使、第2代ペンケ大使に続き、第3代駐日大使にもご講演いただくことができました。今回は、1989年の「人間の鎖」

（バルト三国のソ連併合を認めた独ソ不可侵条約秘密議定書締結から50年となる同年8月23日、ソ連統治下にあったバルト三国で行われた独立運動。約200万人が600キロにわたって手をつなぎ、3共和国の首都を結んだ）からちょうど30年になるのを記念し、ラトビアの歴史に焦点を絞っていただきました。

講演後、ラトビア建国100年を記念し、2018年に大神社より大学博物館に寄贈されたラトビアのグローグラス社製低反射ガラスでつくられた展示カバーを見学されました。



## ★「大澤壽人 神戸からポストン・パリへ 1930-1953」展の開催

大澤資料プロジェクト代表の生島美紀子さん監修による大澤壽人展が5月9日から12月13日まで民音音楽博物館西日本館（神戸市中央区）で開催されます（開館：土・日・祝10:00～17:00<入館は16:30まで>）。関西学院中学部と高等商業学部で学んだ大澤は、作曲家・指揮者としてポストンとパリで高く評価され、帰国後も音楽活動を続けましたが、1953年に47歳で急逝しました。自筆譜をはじめとする3万点に及ぶ遺品は、教鞭を執った神戸女学院に寄贈されています。最近では、2月8日に神戸国際会館こくさいホールで開催された関西学院交響楽団第134回定期演奏会（阪神・淡路大震災25周年メモリアル）で、交響組曲「路地よりの断章」が演奏されました（指揮：佐渡裕）。

